

市民と市役所が

ツナガル通信

Vol. 2

発行日：平成27年7月17日

発行元：ESD・市民協働推進センター



Contents

≫持続可能な岡山市づくりのための
課題解決ワークショップ開催報告

≫平成27年度
『市民協働推進モデル事業』紹介

≫協働のススメ
～岡山市職員インタビュー～

持続可能な岡山市づくりのための課題解決ワークショップ

(兼平成26年度市民協働推進モデル事業報告会)が開催されました！



- ・日時：平成27年7月7日（火）、13:00～17:00
- ・場所：勤労者福祉センター 5階 体育集会室
- ・プログラム：
13:00～15:00「報告会」
15:00～17:00「ワークショップ」
- ・参加人数：101名
(内訳)
 - ・市民、市民活動団体関係者：55名
 - ・市職員：42名
 - ・その他：4名（取材、他自治体職員）
 - ・参加者満足度：平均76点（100点満点）

報告会



10の団体と8の市の部署が岡山市における本格的な協働事業の初めてのモデルとしてその成果と課題の一部を報告してくださいました。5分という限られた時間の中で「協働事業」としての成果を共有することは難しく、報告・評価については今後の課題となりました。

報告会ではご紹介できなかったノウハウや苦労については以下のホームページにて公開予定の事業報告書等から読み取っていただくと幸いです。

つながる協働ひろば「市民協働推進モデル事業」
<http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/2430>

ワークショップ



市民、市職員の双方から提案された11のテーマについて市民と市職員がテーブルを囲み、現在、岡山市が抱えている課題に対して、それぞれが持つ情報と意見を交換しながら、協働による解決策を考えました。

人数と時間の都合により、具体的な解決策と官民の役割分担まで到達したグループ、できなかったグループとありましたが、市民、市職員が相互理解を深める貴重な機会となったようで、特に市職員から「市民との接点が少なくなっていたので率直な意見交換ができたことは有意義であった」という旨の感想を多くいただきました。

ESD・市民協働推進センターでは今回の報告会・ワークショップの運営における反省点を改善しつつ、継続的に市民と市職員の対話の機会を設けていく予定です。そのため、協議のテーマ設定や運営方法における市民の皆様と市職員の皆様からのご意見・ご提案をお待ちしておりますので、いつでもお気軽に声をかけてください。

ESD・市民協働推進センター

問合せ先◆本庁舎2階（月～金・9時～17時）直通電話：086-803-1062（内線：3268）／070-5055-7589

岡山市各課と市民（NPO）が共通の目標達成に向けて、力を合わせて市内の課題解決に取り組む「市民協働推進モデル事業」の平成27年度採択事業の取り組みをご紹介します。

実施
団体

NPO法人だっぴ ×

協働
担当課

教育委員会事務局 指導課、生涯学習課

事業名 中学生が地域の大学生、保護者と交流する 『キャリア教育授業』のモデル化

■協働を通じて、目指すこと。

子どもが人格や将来の希望を形成するうえで、周囲の大人から受ける影響は決して少なくありません。多様な生き方、働き方を知らなければ、狭い視野で理想を設定してしまい、不登校や非行へ陥ることもあります。今年度は、中学生が地域の魅力的な大人（保護者）や大学生と交流することにより、自己効力感を高めることができる『キャリア教育授業』のモデル化を行います。岡山市教育委員会との協働によりモデル化を図り、開催結果を、教育関係機関に広く啓発します。来年度以降、本プログラムが市の掲げる「教育振興基本計画」の展開施策として活用されること、市内中学校や地域社会で展開されていくことを目指しています。

現在、平成28年1月19日（予定）に岡山中央中学校での開催に向けて、プログラム作成、大学生スタッフの募集、学校との調整など、準備を進めています。

■NPO法人だっぴ <http://dappi-okayama.com/>

“進路や働き方を模索する若者”と
“社会をつくる魅力的な働き方をしている大人”とがつながる場を創出し、
若者が自分らしい多様な働き方、在り方を見つけると共に、様々な人がつながる場の継続により、地域の未来を豊かにしていくことを目指しています。

協働のススメ ～岡山市職員インタビュー～

教育委員会事務局指導課 教育支援室長 服部道明さん



NPO法人、市民活動団体ら協働相手に
求める新しい役割や期待することは何ですか。

いじめ、問題行動、不登校、そして学力の定着…、子どもたちを取り巻く課題は山積しています。このような課題には様々な背景がありますが、「子どもたちが夢を持ちにくい」ということもその1つのように思います。社会全体が見通しを持っていない中で、身近な大人がどのように社会参加し、「生きがい」を感じているのか…、学校教育の枠の中だけでは子どもたちに十分伝わっていないのかもしれない。

岡山市では「岡山っ子育て条例」により、子どもたちが愛されていると実感できる家庭、学校園及び地域社会を実現するため、市民協働による自立する子どもの育成を推進しています。様々な方から様々なアイデアをご提案いただき、子どもたちが夢を持ち、目標に向かって進みやすい、進もうとする力を身に付けやすい社会づくりのために、協働していきたいと考えています。

協働を通じて、
どのような効果が生まれましたか。

だっぴさんは、キャリア教育の一環として、中学生が地域の大学生や保護者と交流し、生き方や仕事、勉強する意義について考えるという事業に取り組んでいます。

高校で行った取組では、「大人になるのが楽しみだと思う」というアンケートの問いに対して、事業実施前は17%だった「とてもそう思う」と答えた生徒の割合が、実施後は72%になったという報告があります。つらいことや嫌なことがある中でも、大人たちが前向きにがんばっている生の姿が、子どもたちに伝わった結果ではないでしょうか。子どもたちが将来に見通しを持ち、自分の将来について考える貴重な機会となることを期待しています。

よりよい協働の実践に向けて、
今後の展望をお願いします。

岡山市では、キャリア教育の取組として、中学2年生が様々な仕事を体験する「職場体験」を行っています。だっぴさんの事業とコラボレーションすることで、子どもたち自身の活動に対する意識が高まったり、職場体験を受け入れる事業所や保護者等の意識づけとなったりすることで、より効果的な取組となることを期待しています。

